

(別紙の2)

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に掲示し、理念を意識したサービス提供を心掛けている。職員会議等、常に原点に戻れるよう、ご利用者の皆さまを念頭に考え、地域密着型サービス事業所として、実践に繋がられるよう努力している。	玄関フロア、各階ホールに理念が掲示され職員会やフロア会議で話し合い、常に原点に戻れるよう細かなことでも日常的に伝え、管理者とは面談時に話をすることと職員間で共有し実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設敷地内に畑があり、野菜作りや手入れ等、職員やご家族様、地域ボランティアの皆さま方のご協力をいただいている。収穫時期には声を掛け、一緒に食べたり交流を図っている。	自治会に加入し会費を納めている。小学校の運動会、中学校の音楽会・文化祭に招待され参加し、高校生が職場体験に来訪している。社会福祉協議会のボランティアが頻繁に見え(傾聴、手品、大正琴、演歌歌手など)利用者で交流している。利用者は町内の方が殆どで、畑作り、草取りには家族や地域の農家の方が来ている。地域の防災訓練に職員が出席し、地域社会との繋がりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事・活動に参加し、自事業所の取り組みや認知症という病気の正しい知識や支援方法等、紹介し理解していただけるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催し、ご家族様・行政担当者・民生委員等、参加していただき、課題や現状報告をしている。経過を伝え、ご意見・ご感想を運営や支援に反映していけるよう努めている。	2ヶ月に1回午後1時間の会議が開催され、家族、町担当者、民生委員などが参加している。会議内容は利用者の現状報告やホームの活動報告後、意見交換をしサービスの向上に活かしている。避難訓練と同日の運営推進会議では、活発に意見が出されたという。次回の開催予定日は会議で決め改めて通知している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	待機者状況等、その都度行政担当者に報告している。運営推進会議以外でも、行政が開催する地域ケア会議・研修会に参加し、今後何かあればお互いに連絡・助言をいただけるような関係作りに努めている。	町が開催する地域ケア会議・研修会に参加し助言等をいただき、関係作りに努めている。介護認定更新調査はホームにて行い、家族の3割程が立ち会っている。入居前、地域包括で対応された方についてアドバイス等をいただき話し合いを行ったこともある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月のフロア会議や日頃から利用者の状態・状況について話し合いモニタリングを実施。現在身体拘束している方はいないが、やむを得ない場合は必要な手順(家族の同意等)を踏まえ、拘束しないケアに取り組んでいる。	玄関は開錠されている。ユニットの入り口は安全確保のため施錠されている。現在拘束を必要とする利用者はおらず、外出傾向の強い方もいない。センサーマット使用者がいるが転倒防止のため、家族の了解を得ている。職員会議、フロア会議、内部研修を行い拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に向けて、外部研修や職員全体会議内での内部研修等で理解・知識を深め、管理者・職員全体で共通理解に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に制度を活用されている方もいる為、全体会議内での内部研修として議題としたり、外部研修で学んだ事を職員が共有できるように行っている。また担当者からも情報をいただき、学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、詳細に説明する共に、利用開始後も安心してご利用していただけるよう、質問・疑問等、答えていけるよう体制を整えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等、ご家族さまとの会話する機会を作り、要望が汲み取れるよう心掛けている。また面会が途絶えないよう、職員からもご家族さまに足を運んでいただける取り組みを行っている。	ほぼ全利用者が要望を伝えることができる。家族の来訪は毎日来られる方、週2回、年1回の方もいる。来られた家族には職員が声をかけ、意見、要望をお聞きしている。家族会は運営推進会議の後お茶を飲み行われている。町福祉課より白寿の利用者に祝いの品が届き、家族が見えてお祝いをした。毎月送られるホーム便りは利用者の日々の生活が写真付きで紹介され喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議や年2回の個人面談等、直接意見や要望を聞き、業務改善や運営に反映できるよう努めている。	毎月の職員会議で話し合い、管理者は年2回、年間目標の個人面談時職員の意見を聞いている。出勤時間の見直しの意見が出され話し合いが行われたこともある。母体の法人の食事会が開催され、事業所の垣根を越え親睦が図られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々に家庭環境や希望の就業環境を聞き取りながら、向上心を維持し継続的に働くことのできる職場環境を目指し取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常的に学習していく事を推進する為に、研修や会議等の参加を促している。また研修内容は報告書を作成し、全職員が閲覧できるようにしている。現場で働きながら学ぶOJTを大切に、現場にて考え助言する機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所への見学や同一法人内事業所と交流を持ち、自事業所以外の方からも意見や助言をいただき、質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に担当者から情報収集を行い、本人に適した入居方法を考えている。ご家族様と連携を取り安心して過ごして頂けるよう信頼関係の構築に努めている。また、ご本人様の要望を必ずお聞きしプランに反映している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	計画作成担当者・管理者が入居前に面談・訪問を行い、ご家族様として困りごとをお聞きし、入居になっても、いつでもご家族様が来ても大丈夫な事を伝えている。お話をお聞きすることで良好な関係作りを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様の状況を把握し、事前に来所していただく等、必要な支援をしている。他のサービス事業所とも連携を図り、入居が決まっても行き来して、情報をもらうようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活をさせていただくという姿勢を大切に、時には職員がご利用者に頼ったり甘えたり、何かする際は相談する等している。喜怒哀楽を出せるようお互いが家族のような関係作り・雰囲気作りに取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から連絡を取り、ご家族様とのコミュニケーションが多くなるよう働き掛けている。お便りに近況や良いエピソード等を伝え、今後のケアの方向性を相談したりと生活を共に考えるパートナーと考えて関係作りをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	行きつけのお店やなじみの方と出会うよう、商店街に出掛けたり、年に数回、町内の喫茶店で過ごしている。また近隣の方は、頻りに面会に来たり、気軽に声を掛けてくださる。	馴染みの美容院へ行かれている方が数名おり、その他の利用者には出張理美容の方が見え、家族が髪を切りに来る方もある。携帯電話で家族や知人に連絡をとり、手紙を出したり家族が来られ選挙に行かれた利用者もいる。商店街へ出掛けることも多く、自宅近隣の方も頻りに面会に来られ関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方や面倒見の良い方等が隣になるような席を配慮している。困っている方がいると職員を呼んでくださる方や話したい方がいると移動していたりご利用者同士の関わりが多くある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先やご家族様の元に事業所便りを送ったり、行事へのお誘い等行っている。また、ご家族様が行事の時期を把握してくれており、畑の手入れ等に来て下さる事もあった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、ご本人様の思いや意向を確認、モニタリングの際にはご家族様からも希望を聞きプランに反映できるよう努めている。また確認が困難な場合は、ご家族様と話し合い、必要な支援を検討している。	ほぼ全員が思いを表出することができる。契約時、本人や家族よりお聞きし、また、日常生活の中から思いを汲み取っている。入浴時などに話しやすい職員に悩みを打ち明ける方もいる。柔軟に物事を捉え職員間で共有し、本人や家族の思いや意向を聞く機会を多く持ち、ケアプランにも反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前にご本人様・ご家族様から生活歴を確認しアセスメントシートに記載している。これまでの情報は生活する上でヒントがあると考えている為、把握に努めている。また新しく得た情報は随時追加して共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの状況を把握できるようセンター方式等を用いている。出勤時にはケース記録・申し送りノートを確認・活用し共有している。毎日のバイタル測定で体調の把握にも努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要ごとにモニタリングを行いご本人様・ご家族様の意向をお聞きしている。その他にも課題や検討が必要な時にはカンファレンスを行い現状に即した支援が出来るように取り組んでいる。	職員は2~3名の利用者を担当している。介護計画は職員会議・フロア会議で話し合い、モニタリングを行い、計画作成担当者が作成し、6ヶ月ごとに見直しを行っている。家族からの気づきや要望などをお聞きし、状態に変化が見られた場合には見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プランの実施記録と共に日々の様子や変化等、必ず個人ファイルに記録し、申し送りノート等で共有している。ご本人様の言葉や思いをありのままに記載し、その後のプランの見直しに活かせるよう取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お墓参りや買い物等の希望に即した外出支援をしている。施設だけでなく他の施設との交流や地元サロン会に参加する等、柔軟な支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	喫茶店や行きつけの美容院等で、友人・知人と会う事を楽しみにされている。地域のサロン会に参加する事で施設では見られない姿も見ることができている。行事の案内も行き、地域の皆さまも参加していただけるよう働き掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に、入居前からのかかりつけ医を継続をお願いしている。受診時は情報提供表を記載し、必要時は職員も同席し医師に状況を説明し、適切な医療を受けるようにしている。	入居前からの総合病院のかかりつけ医を継続されている方が三分の二ほどおり、他の方は法人クリニックとしている。法人クリニックでは月2回の往診があり、主治医から24時間対応で緊急時の指示を受けることができる。看護師がユニットごとに1名おり、家族や職員の安心に繋がっている。歯科医は依頼すれば往診し、薬は近くの薬局で届けてくれる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各階に常勤看護師が1名勤務しており、日頃の健康管理に努めている。また地域の総合病院から往診に来てくれる為、医師から直接相談や処置対応等の指示を受け支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必ず付き添い、当日までに情報提供を行いご本人様・ご家族様が安心して治療できるよう、心掛けている。また早期退院出来るよう努め、ご家族様と一緒に対応や注意事項等聞き取り、関係作りも継続して行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に、終末期の過ごし方の説明とご家族様の希望を伺い、随時体調を見極め終末期をどこで迎えるか確認している。施設での看取りを希望された際はご本人様・ご家族様・主治医・医療と連携を図り、過ごせるよう最大限出来ることを支援している。	利用契約時、重度化事前指示書をいただき、変化があればその都度家族の意見をお聞きし話し合いを重ねている。職員は看取りに向け方針を共有し最期をホームで迎えられよう取り組んでいる。昨年は2名の看取りを行った。入院されていた利用者がホームに戻り、白寿の方も最期をホームで迎えエンジェルケアを行い家族から大変喜ばれ、職員のモチベーションアップに繋がっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内での急変時や事故発生時を想定した対応の訓練・研修を行っている。看護師は24時間オンコール対応とし、介護職員の不安軽減にも繋げている。また定期的にAEDの研修にも参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練に合わせて、災害を想定した訓練を実施。近隣住民・地域の皆さまの協力もいただき、放水・避難訓練も行っている。	年2回、消防署からも1回来ていただき、避難、消火訓練が行われている。出火場所を幾つか想定し、利用者も参加し行われている。エレベーター使用が出来ないため、敷布団を引きずっての練習なども行っている。地域の防災訓練にも職員が参加し、施設の様子をお知らせし、近隣住民・地域の方々の協力をお願いしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりを尊重した言葉使いや、ご利用者様と職員が築いてきた関係性に合った接し方を心掛けている。プライバシーに配慮した対応としては、排泄・入浴等の誘導時には、そっと声を掛けるよう行っている。	お呼びするのは尊敬と親しみを込め、「苗字」にさん、同姓の方は下のお名前で声掛けしている。利用者や職員が築いてきた関係性に合わせた地域の言葉で優しい対応がなされている。研修や職員会議・フロア会議で話し合い、誇りやプライバシーを大切に人生の先輩として接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	些細な事でも選択肢を設けたり、目で見て選んでいただく等、自己決定できるよう取り組んでいる。また希望や関心、嗜好等も把握できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	午前のお茶の時間等、その日の予定を伝え希望に応じた支援をしている。またその際に、新聞に記載されている地域の記事を読み上げ、外出の予定と一緒に立てる等、ご利用者様と一緒に、時の流れを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	就寝前や起床時に、着たい服を選んでいただいたり、鏡の前で身だしなみを整えていただいている。特別な外出等で、お化粧されたりコーディネートを楽しんでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テレビや広告を見て食べたい物を伺ったり、季節の食材をどのように調理して食べたら良いか等、ご利用者の皆さまと一緒に楽しみながら食事作りや片付けを行っている。季節感を味わえるような食事を心がけている。	全介助と一部介助の方がそれぞれ数名ずつで、その他の方は自力で箸を使い、職員と一緒におしゃべりしながら楽しく食事をしている。献立は法人よりFAXが送られ、厨房専門職員が作っている。利用者も食事の準備・片付け等、持てる力を発揮している。畑の野菜を収穫し、季節を味わいながら食事、おやつ作りをして食卓を囲み、年末には少し豪華な食事にノンアルコールビールも出たという。外食として、食堂、喫茶店などへ出掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々、個々の状態を把握し、普段と食分量や水分量が明らかに少ない時は記録に残し、その人が食べやすいよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け・介助を行い口腔ケアを実施している。また職員は口腔衛生についての重要性を理解し、外出からの帰所等、うがいの徹底に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄パターンの把握に努め、その方に合った声掛け・誘導を行っている。可能な限りトイレで排泄し、自立に向けた支援に結び付けられるよう取り組んでいる。	自立の方が数名で、その他の方は何らかの介助が必要となっている。布パンツ使用の方もおり、その他の方も排泄表を利用し基本的にトイレで排泄できるよう声掛け、誘導を行い、自立に向けた支援に取り組んでいる。夜間ポータブルトイレを使用している方もおり、2階のトイレは大きく表示され、場所がわかり易くなっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	基本的に日々の運動や水分補給、乳製品を活用している。排泄表にて確認を行い、必要な方には内服薬で対応・腹部マッサージを行っている。看護職員と相談しながら個々に応じた支援を心がけている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人様の希望を聞き、午前・午後の予約を取ったり、良いタイミングで入浴していただいている。また入浴での嗜好把握に努め、手順を同じにして気持ち良い入浴に取り組んでいる。	自立の方は若干名で、全介助の方が数名、その他の方は一部介助となっているが週2回入浴している。浴槽は広く、ステップになっており、入浴、介助もし易い。入浴前には水分補給を必ず行っている。仲の良い方が2人で入浴されることもある。水鉄砲で指を動かす訓練をしている方もいる。現在入浴拒否の方はおらず、季節や行事に合わせ、入浴を楽しめるような工夫もされている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は個々に違うので、習慣に合わせて休んでいただいている。ゆっくりテレビを見て過ごされる方や食事の後片づけをしてくださる方もいる。時期に合わせて、室温や湿度にも配慮を心掛けている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ファイルを用意し、どの方がどのような薬を内服しているのか把握できるようにしている。服薬時にご本人様の飲み込みまで確認し、飲み忘れのないようにしている。看護職員とも連携し状況の変化に対応している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話などからアセスメントし、プランに添いながら得意な事をなるべくして頂けるよう支援している。ドライブ・歌や踊りなど楽しみにしていることを把握し出かける機会を大事にしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の催し物・サロン会等、情報を提供し、希望に添って出掛けている。また時期に合わせた外出やご家族様にも協力していただき、お墓参り等、ご本人様の行きたい所へ行ける支援に取り組んでいる。	行事・レクリエーション年間計画表が作られており、外出の機会は多く、春には桜・藤・ツツジを、秋には赤そば・コスモス・紅葉など、数回に分けてドライブに出掛けている。小学校の運動会、中学校の音楽会、地域の催し物・サロンに出掛け、商店街やスーパーにも買い物に行っている。家族の協力も得て本人の行きたい所に行けるように支援している。洗濯物を干したり、テラスで外気浴をしたり、ホームの畑作り・草取り等をするなど、気分転換も図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能なご利用者様には、ご家族様に同意いただき少額の現金を管理していただいている。金庫管理の方も、職員と一緒に外出して買い物を楽しまれたり、必要時には代行で買い物対応とさせていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用契約時、ご家族様と連絡方法について相談し対応を心掛けている。またいつでも使用できるよう、ご家族様や知人からの電話の取次ぎも自由に行う事ができるよう環境を整えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様の作品を飾ったり、季節によって花や扇風機、コタツを用意して快適に過ごせるよう工夫している。浴室やトイレには分かりやすい表示をし、窓から洗濯物が見える等、生活感や季節感を感じられる居心地の良い空間作りに取り組んでいる。	共用スペースは広々とし、利用者が作った手芸作品や季節の飾りがされている。ホームの日常を紹介した掲示は沢山の写真に項目ごとのコメントが付けられ、家族来訪時に一目でわかる工夫がされている。畳敷きの小上がりで利用者がおしゃべりしたり、テレビを観たりしている。日当たりも良く、生活感や季節感が感じられる心地良い共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳み部屋の上りかまちや玄関外にベンチを置き、1人になれたり、気の合う方のおしゃべりを楽しんでもらえるよう環境整備に取り組んでいる。仲の良い関係を職員も把握しており、話しやすい席等の配慮を心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、自宅で使用していた家具等を持って来られたり、生活に合わせてテレビや空調機を置いたり、写真や思い出の品を自由に飾る等、ご本人様が居心地良く過ごせるよう工夫している。	居室は十分な広さがあり、自宅から持ち込まれたタンスやテレビが置かれている。編み物が趣味であった利用者の作品や縫いぐるみ、家族写真、誕生日色紙等が飾られ、ハンガー掛けに洋服が掛けられ、ベットの上にはハンドバックも置かれ居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりの力量に応じて、安全に自立した生活が送れるよう家具の配置や個人の押し車の置き場所にも配慮している。歯磨きセットや洗剤等の置き場も随時検討し、安全な環境作りが心がけている。		